

2010年 年頭挨拶

会長 内田 恵介



新年あけましておめでとうございます。

皆様には良い年をお迎えのことと存じます。

会員の皆様におかれましては日頃からIPPS-Jの活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。昨年を振り返ってみますと目まぐるしく過ぎ去った激動の一年だったように思います。

2009年を表す漢字が「新」であったように政権交代により新しい取り組みが始まり、世界情勢も新しい枠組みのなかで大きく変動しています。

私たちIPPS-Jの活動も少しずつですが新しい試みを始めています。

昨年の滋賀大会では少しでも多くの会員の皆様に参加していただけるよう、実行委員をはじめ地元の皆さんの協力を得て会員相互が密接な関係を築けるような新しいスタイルの大会を開催することが出来ました。

またIPPSの持続的発展のための人材育成を目的とした ニュージーランド支部と日本支部間の国際会員交流事業の立ち上げも進めています。この事業は特に若い世代に対して広い視野を持つ機会を提供し、植物関連の諸分野で活躍していただく人材の育成を図るものであり、今後のIPPSの活動の柱に発展させていきたいと思っています。

この会は会員が自らの手で価値あるものに作り上げていくものだと思います。私たち役員は人と人を繋ぐことが役割だと考えています。国際交流によって人を繋ぎ、ニュースレターで会員の情報を発信し、大会によって会員同士の関係をより強く築くことがこの会の姿です。

今年の大会は愛知県で開催されます。すでに愛知県では大会に向けて着々と準備を進めていただいています。今年も多くの会員同士が互いの知識や経験を共有し、それぞれの分野で活かすことができますよう多くの会員の皆様のご参加をお願いしたいと思います。

ニュースレターへの原稿大募集

会員相互の情報交換の場として、このニュースレターをご利用下さい。

気軽に投稿して頂ければ幸いです。No.36号よりカラー印刷になりました。

宣伝効果も絶大です。ご投稿を心からお待ちいたしています。

原稿は原稿用紙への手書き文章は勿論 CDでも、Eメールでも受け付けます。写真も大歓迎です。原稿の内容は1ページ当たり1,000字+写真2~3枚です。必ず顔写真をお忘れなく。

受付窓口

〒 514-2293

三重県津市高野尾町 1868-3
(株) 赤塚植物園 藤森 宛

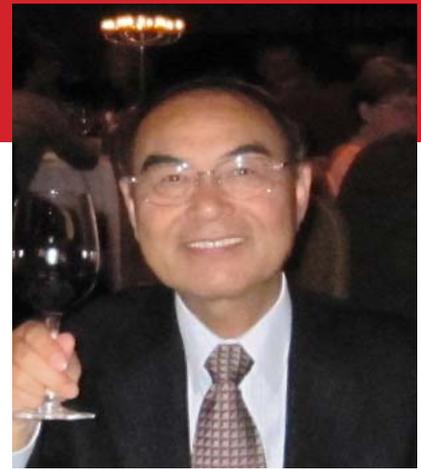
TEL 059-230-1234

FAX 059-230-7880

E-mail ffctf@akatsuka.gr.jp

2009 年国際理事会への参加

近畿大学生物理工学部 仁藤 伸昌



2009 年国際理事会が、2009 年 9 月 15 日から 18 日までのイギリス・アイルランド支部 (Great Britain & Ireland Region) の年会にあわせ、アイルランドのキルケニーの Lyrath Hotel で開催されました。キルケニーはアイルランドの首都のダブリンから南南西にほぼ 110km に位置する 1600 年初頭に開かれた歴史の香りを強く残す町です。会場となったホテルも 170 エーカー (約 21 万坪) という広大な敷地の中にあります (写真 1)。会議のメンバーは、8 支部からの代表 2 名 (日本と南アフリカは各 1 名) と編集と事務担当の Charles and Pat Heuser 夫妻です (写真 2 と 3)。

* 日本支部に関係する事項をお知らせします。

1. ロゴと規約の改正について

「Sharing Plant Production Knowledge Globally」(植物生産の知識を全世界で共有する) と書かれた横長の新しいロゴが公式のロゴとして使われます。これは、2008 年のニュージーランドでの会議で決定しました。また、IPPS の名称は、従来の International Plant Propagators' Society (IPPS) のままですが、本会の目的を Plant Propagators' (植物増殖) から Plant Production (植物生産) へと広義に解釈することになります。規約修正の最終版はまだ届いてい

ませんが、追って日本支部の規約を一部変更する必要があります。今まで使っていた丸い枠の中の接ぎ木の手のロゴは多くの会員に馴染みがあり、それぞれの支部で国内的にはそのまま使っ

て良いとのこと。また、5 年間会員であると配布されるプラーク、バッチ、日本支部でも使っている旗などは、予算的なこともあるようなので今までのものを使うことになっています。

2. 来年以降の開催地について

2010 年の国際理事会は、北米東部支部が担当で、フィラデルフィアを中心に 9 月 17 日のプレ

コンGRES ツアーから始まり、9 月 29 日までの間開催されます。それに伴い、会長が G.B. & I の Peter Bingham から James Johnson 氏に引き継がれました (写真 4)。Johnson 氏は生産者ではなく、普及の専門家です。

2011 年はオーストラリア支部がシドニーを中心に 5 月末から 6 月にかけて行われる予定になっています。



写真 1. 正面玄関へのアプローチと広大に広がる庭園

2012年は日本支部の担当です。今年の北米東部支部主催の国際理事会までには、大まかな計画を作ってください必要があります。関係の皆様方と会員のご協力を改めて願い申し上げます。会長は仁藤がつとめさせていただくことになっています。

*アイルランドの風景

アイルランドへの道のりは遠いものです。関空からは直行便がないのでパリ経由です。パリまで15時間、パリからダブリンまで1時間半です。ダブリンからキルケニーまでは110kmくらいですが、一部の高速道路以外はほとんどを一般道路で走るの3時間近くかかりました。時差は8時間です。高い山がなく、穏やかなうねうねとした丘陵地が続きます。道路脇には麦畑や牧場が広がり、のんびりした風景です(写真5)。

イギリス・アイルランド支部の活動

年会は150人ほどの集会でした(写真6)。研究発表の内容は現場から生じた問題点を解決するためのものが多く、会員相互の情報交換の役割を果たしているようでした。ニュースレターも白黒ではありますが、なかなか内容のあるも



写真2. 会議の風景(大急ぎで作った手製の旗です)



写真3. Charles and Pat Heuser 夫妻

のです。日本支部が見習わなければならないと言ほどのものではありません。日本支部も小さいながら地についての活動を行っているという自信を持って帰ってきました。

所用のためプレ及びポストコングレスツアーには参加できませんでした。生産現場の見学ができず情報をお知らせできません。会員の皆様には申し訳なく思っています。ご容赦ください。



写真4. 名誉会員授与式での2009年会長Peter Bingham氏(左)と次期会長James Johnson氏(右)



写真5. 道路脇に広がる穏やかな風景



写真6. 会場の展示と開会前日のディナー



IPPS-J 第17回 愛知大会 “Seek & Share”

開催日程： 2010年10月24日(日)～25日(月)

会場： ◎講演・研究発表(24日)

愛知豊明花き地方卸売市場(3階 研修室)
<http://www.toyoake.or.jp>

◎懇親会 (24日)
ホテルクラウンパレス知立

◎見学会 (25日)
豊明花き市場セリ場見学から START!!
その後、バスにて名古屋近郊見学予定



愛知豊明花き地方卸売市場

交通案内 愛知豊明花き地方卸売市場：名鉄本線「豊明駅」下車徒歩1分
ホテルクラウンパレス：名鉄本線「知立(チユウ)駅」徒歩5分

参考宿泊先 大会本部では宿泊予約を承りませんので、各自ご予約ください
ホテルクラウンパレス知立 (www.crownpalais.jp/chiryu)
アイリスイン知立 (www.iris-in.jp)
ホテルルートイン知立 (www.route-inn.co.jp)
名鉄イン刈谷/金山 (www.m-inn.com)



ホテルクラウンパレス知立

連絡先

IPPS-J 愛知大会実行委員会

実行委員長 水谷朱美

TEL (0532) 25-8712 FAX (0532) 25-8486

e-mail a.mizutani@verde-agribio.co.jp (株)ベルディ

IPPS-J 愛知大会実行委員会 事務局長 加藤淳太郎
(愛知教育大学)

IPPS-J についての詳細は、ホームページをご覧ください。
<http://www.ippsjapan.org/>

Happy New Year 2010

新年あけましておめでとうございます。

IPPS Japan の皆さん。どちら様もお元気で新年をお迎えのことと存じます。滋賀大会参加できず残念でした。まだ体調回復に至りません。カラー刷りになったニュースレター 楽しみにしております。今年こそ参加できるよう養生に努めます。

さいとう

一昨年8月に食道癌の手術をしてはや、一年と4ヶ月を経過しました。

4ヶ月すでにおまけを戴きました。おまけを大事に育てて、まだお役に立てそうですので、長生きして皆さんのお役に立ちたいと思います。

皆さんからたくさんのお見舞いやご挨拶を頂いていながら、きちんと御礼もご返事も出来ないでいますこと、改めてお詫びを申し上げます。やはり体調不良と根気が続かない、疲れやすい、心悸昂進など病魔はまだ私の体に巣くっているようです。以前の私に速く還りたいです。

今 北タイは寒乾季の真っ最中、涼しく乾いて一番過ごしやすい季節です。まもなく山焼きが始まり空が煙空になり、4月、一番暑い季節にタイ正月、ソンクラーン・水掛まつりを迎え、そして雨季へととなります。

仕事は球根や生植物および切花の輸出です。いわゆる先進国は同様に景気の後退があり、私どもの商品はかなり難しい条件下にあります。しかし幸い全体的には大きな落ち込みにならずに推移しています。これも

ひとえに皆さんのご支援のおかげと感謝しております。

私は2年前からロングステイビザでタイ王国にタイの家族に囲まれて滞在中です。文化も歴史も違う国で、やはり戸惑うこと、多々ありますが、ここがついの住処と決めて、この国のお役にも立ちたいと決心しています。

微笑みと癒しの王国、と言われながらも、ここ数年経済の進展に伴い、そのイメージも変容しつつあるようです。政治的混乱もしばらく続きそうです。しかし一般の人々の暮らしはゆっくりには変わりません。まだまだ人心は豊かです。どうぞ時間を作ってタイ王国にお越しください。

2010年がどなた様にも日本にも発展と再起の年でありますように。私にとっては全快の年ありますように。

私のホームグラウンドの写真を送ります。

2010年1月 吉日
さいとうまさじ 拝

北タイ・ランブーン・メータの さいとう様から届きました
「写真つき便り」のご紹介です。

(2009年7月7日メール発信)

今年(2009年)の雨季は昨年と違ってよく降ります。もう良い、と言ってもまだ降ります。昨年はというと球根を5月に植えて、雨待ちを2ヶ月間もしました。8月になってやっと雨らしいものが落ちてきました。

今年の作物は順調です。雨季入りで平均気温はぐっと下がり、雨の後は寒いくらいです。

去る6月1日、2～3日続いた大雨(バンガラデッシュなどサイクロン襲来だったとか)の後、空気は乾き、空は抜けてきれいな星空になりました。

右は昼間の月で、こんなにきれいに見えます。これからの雨季の夜は天の川が「Miky Way」と言われる由縁が分かるほど、南北に長く横たわります。なんだか変ですね。雨季なのに。



6月1日 長雨のあと、真っ青な空に真昼の月。タイでは時々こんなことがあります。タイでは空が一番きれいなのは雨季です。こんなところは日本の雨季、つまり梅雨とは全く性質の違う雨であることが分かります。



6月1日夕刻、鯨山に落ちる夕日。逆光を跳ね返す池の水。

雨季でもこのような満杯状態は珍しいです。雨季、乾季のはっきりしたタイ北部、東北部ではため池農業です。日本でも瀬戸内がそうでした、というのも、今では灌漑設備が整ったようで、その役割はあまりなくなっただけなのでしょうが、タイではまだまだ現役です。

まずは農業用ダムが絶対に足りない。大規模でなく小規模が良い。

日本の各種援助や借款はもっと民生に役立つイ

ンフラ整備に活用してもらいたいと思っています。

タイは水さえ潤沢にあれば恵み豊かな熱帯の太陽が懸命に働いて、世界の胃袋を満たすために食料、すなわち炭水化物をたくさん生合成してくれるでしょう。

下の写真は6月16日、雨のおかげで植えた球根の芽が生え、育ち始めました。昨年は8月まで雨が殆ど降らず、芽が生えず、オロオロ歩く夏でしたが、今年は順調です。

芽さえ出れば、さすが熱帯です、どんどん

育ちます。カラジュームという観葉球根の畑から、このあたりの最高峰（1000 m位かな）を望む。前方赤い屋根、青い屋根も当社の建物です。



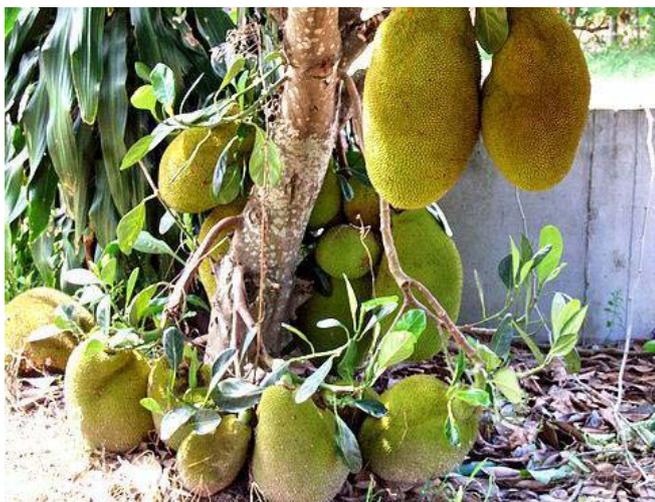
Maewan というところのダム湖。彼方にはタイ最高峰ドイインタノン（といっても 2700m あまり）がある。雨の脚が見えますか？直下はいわば集中豪雨です。



前回に続いてクリナム（浜木綿）の一種で Elen Bosanquet というワインレッドの贅沢な色をした傑物です。原種ではなく交配種です。

雨季は果物の季節。今回は当社農場にある果物のうち、人気のあるジャックフルーツを紹介します。

このように樹の下のほう、時には地面に転がって成ります。"Chiangmai Setcon Flora Co.,Ltd" 味、香りともによし、私はドリアンよりもこちらが好きです。つい食べ過ぎます。



クワ科パンノキ属のジャックフルーツ



"Gramatophyllum"

蘭の世界も深くて広いですね。シンビに似た"Gramatophyllum"というランです。緑の花がとても新鮮です。まだ貴重品のようでタイでもまだ高いです。

久しぶりに再発行しましたところ、いろんな方々からお便りをいただきました。感激して読ましてもらいましたが、ご返事がまだ出来ないでいます。すいません。

体調はまだ本調子ではなく、とても疲れやすく根が続きません。でも仕事はきちんとかなしておりますし、健康管理もちゃんとしています。酒もタバコもまだ厳禁しております。ご心配なく。

6月20日の予定が7月7日にずれ込みました。七夕でしたね。次回プルーメリアと竹の里を目指している、当社の公園？計画の一部を紹介しようと思っています。

今夜は雨で七夕の気分は味わえないようです。

2009年7月7日

さいとう

北タイ・ランプーン・メータより

Chiangmai Setcon Flora Co.,Ltd

メールアドレス: phudin@hotmail.com



私はまだ若いのでリアルタイムで経験していないが、昔は新花卉などの雑誌や各学会でややもすると企業秘密とも思える非常に勉強になる研究が発表されていたようである。それらから学んで今活かしている人も少なく無いだろう。しかし近年研究内容はどんどん企業の内部や個人の中に隠されてしまい、若者が勉強しやすい環境ではないと思う。もちろん研究には多額の費用がかかり、競争社会の中でそれらを秘密にすることで強い武器にしていかなければいけないと思う。しかし、隠そうとすればするほど研究は進まなくなる。そもそも活発な研究は活発な議論があって活性化されるものであり、隠そうとすると自ずと研究担当者が外部との接触を避けたり、外部から入ってくる情報をスパイのように聞くだけになってしまう。巨大な業界であれば企業の内部にこもっていても内部にいる多彩な人々との議論も進もうが、この小さな種苗業界では各社の研究能力は人員削減予算削減と共に急激に低下しており、それぞれが悶々と、時には一方通行の情報だけを勝手に解釈し、研究に励んでいる。この際あまり情報を抱え込まないで、お互いに漏洩しあうことで研究が活発になり、新たな発見に繋がるのではないだろうか。過去の日本の育種はそうやって世界に誇れるレベルになったのだと思う。IPPSの理念である Seek & Share は本当に素晴らしい。

最近、品種の権利を守るために、品種登録以外にも特許を取得しようという動きがあちこちで見られるが、この動きは業界の為になるのだら

うか？種苗法では新しいものを生み出す為になれば登録品種は使って良いとされている。これは新しい品種を生み出すことを妨げない素晴らしい決まりである。しかし、特許となると別である。組換え植物であれば、遺伝子自体が特許であり、それを使って品種を作った場合も特許遺伝子が入っていると問題になる。この件はナタネで既に問題になったが、内容はこうである。遺伝子組み換えしていないナタネを栽培していた農家の畑に、組換えナタネの花粉が飛び込み、遺伝子汚染した。それを遺伝子特許を持つ会社が無断調査して、特許不正使用で訴えたのだ。どちらかということ遺伝子汚染された側が被害者だと私は思うが、理不尽なことに会社側が勝訴した。日本では組換え植物自体はまだ受け入れられ難い土壌であるから、全く同じことは早々起こらないと思うが、組換え植物でなくて、人工的に作り出さなくても生じるある特定の形質を特許とすると、今後自然発生したものまで特許侵害ということになる可能性があるし、特許形質をもった品種の花粉が周りの株に交雑し、そこから勝手に生じた植物体までもが特許侵害？になってしまうのだろうか？特許を審査する際には是非とも植物のことに精通した方に審査していただきたいものである。今のままではとんでもない特許が横行

し、品種開発の足かせになってしまうと思うのは取り越し苦労だろうか。特許の本来の目的は、素晴らしい技術が生活に活用されることを促進するものである。



愛媛の「青いケシ」

愛媛大学農学部 大橋 広明



前回の愛媛大会から早くも7年が経過し、2年後には2回目の愛媛大会を開催することになっており、少しずつではありますが準備を始めております。そこで、少々気が早いのですが、あまり知られていない愛媛県の一面を紹介したいと思います。

一般に「愛媛県」について思い浮かぶものは？と尋ねれば、返ってくる答えは、「みかん」、「道後温泉」、「正岡子規」くらいで、ごく最近、NHKで「坂の上の雲」の放送が始まり、その舞台として多少は認知され始めたくらいかと思えます。

自然条件としては、温州みかんのイメージから南国のイメージが強と思いますが、松山市内からは、冬には雪化粧した石鎚山が望めます。この西日本最高峰が聳えるおかげか、起伏に富み、松山市内から車で1時間も走れば、ササユリ、シコクカッコソウ、ユキモチソウなどレッドデータブックに載せられている植物の自生地もあり、野生植物好きにとっては気軽に様々な植物を見に出かけられる、恵まれた立地条件と思っています。

そうした中の一つに皿ヶ嶺があり、市内からもその名の通り平らな姿を望むことができます。そろそろ山頂付近が霧氷で白くなった姿を見せるようになりますが、市内から山頂近くまで、車で1時間程度で行ける身近な山です。この標高900m程度の場所に風穴(かざあな)と呼ばれる、かつては貯蔵庫として用いられていたらしい石垣で囲まれた窪地があり、年間を通じて0～10℃の冷気が吹き出しています。

この中で、「ヒマラヤの青いケシ」として有名なメコノプシスが、数十株程ですが栽培されています。かつての花博では冷房温室の中で、かろうじて花を咲かせている貧相なものを有り難く拝んだ記憶がありますが、それとは比べものにならない程に元気良く育ち、太い茎を1.5m程に立ち上げ、大きな花を咲かせます。生憎、開花期が梅雨時のために、条件の良い日はそれほど多くはありませんが、数日晴天が続いたときには、木漏れ日を浴びた美しい青い花を見ることができ、一見の価値はあると思います。

2011年の愛媛大会は台風時期を避けるために6月開催の方向で計画を進めています。ちょうどメコノプシスの開花期にあたりますので、関心がある方には、「南国」らしくない愛媛県の一面を見ていただけるよう、できればご案内する企画を考えてみたいと思っております。



会員紹介 コーナー



代表 芝崎 裕也

南紀グリーンハウス

1984年、2年間のアメリカでの農業研修を終了して、日本へ帰国しました。出身地の三重県南部の御浜町がミカン産地のために、アメリカではアリゾナ州の柑橘農場（スペンサー農場）で研修しました。2年間のうち6ヶ月間は大学での語学やアメリカ農業の講義を受け、1年半は1,600haの広大な農場で仲間たちとの研修生活でした。大学では英語を勉強しましたが、研修現場ではスペイン語の方が意思の疎通に便利でした。2年間の滞米生活は人間形成や世界的な視野で物事を考える面からも貴重な経験となりました。

帰国と同時に研修生の先輩が経営する、植物の生産販売の総合商社である(株)ハクサンに入社しました。ここでの仕事は海外から観葉植物や草花の苗（バイオ苗、挿し木苗、実生苗）を輸入して、国内の生産者に卸し販売する仕事でした。ですから海外の園芸先進国（アメリカ、オランダ、ドイツ、

デンマークなど）や中南米へは頻繁に出掛けては生産者へ販売する植物を捜し歩きました。サトイモ科の珍しい観葉植物、パイナップル科のプロメリア類やチランドシア類、コニファー類の新品種を数多く海外から日本へ紹介しました。

国内の販売範囲は東海・関西地区から次第に増えて関東方面まで伸びていきました。関東営業所の所長をしている頃は埼玉県、千葉県、神奈川県の実産者に植物の苗を販売していました。

園芸植物の生産、卸販売、流通、小売の現場を歩いた経験を生かすべく、その後、12年間勤務した(株)ハクサンを退社して、出身地の御浜町へ帰り、南紀グリーンハウスを設立して、両親の世話をしながら園芸植物の生産を始めました。

個人的な好みであるエアープランツ（パイナップル科のチランジア属）の生産を始めました。この植物は中南米から輸入して、お客様のご希望により全国へ卸販売をしています。チランジア属は世界に1200品種以上ありますが、商品性の高い品種を選択して約50品種を中南米から輸入して生産管理し、商品化して、卸販売しています。また、品種をいくつか組み合わせ、様々な容器に寄せ植えた作品は大変に好評です。多くの店で販売されています。

その後、地域社会へ密着しての活動として、園



バークをベースにあしらったエアープランツ



出荷をひかえたエアープランツ栽培ハウス



奥様手作りのハンギングバスケットと芝崎社長



クリスマスバージョンのエアープランツ

芸教室の開催や園芸福祉の普及活動など園芸の総合プロデュースを楽しく展開中です。

最近キノコ類の試験生産を始めました。地元御浜町には昔から沢山のキノコが自生していましたので、若い頃からキノコ生産には関心がありました。そんなことから、家庭用の趣味と実益を備えた商品開発を考えています。

シイタケの菌床による生産や、ナメコをビニ-



家庭向け用の菌床によるシイタケやナメコ

ル袋で生産する方法、ハタケシメジを草花感覚でプランターによる生産などを行っています。これらの商品化をなんとか軌道に乗せて、ご家庭にお届けしたいと考えています。ご家庭でキノコ栽培を楽しみ、それを食べて、健康になっていただくことです。

将来は世界中にある沢山の有用植物を集めて、研究し、生産して、人間生活に役立てるための具体的な方法を考えて、商品化したい。アイデアは沢山あるがすべて自分でやらなければいけないので時間がかかります。

やりたいことを楽しくやることが私のモットーです。

(取材：藤森忠雄)

南紀グリーンハウス

〒519-5322 三重県南牟婁郡御浜町上野 118-3

TEL：05979-4-1090 FAX：05979-4-1127

<http://www.cypress.ne.jp/sibayan>

IPPS-J 第七期理事・監事・役員・理事代理名簿
(2009.1.1 ~ 2010.12.31)

	役職	氏名	会社・所属
1	会長	内田 恵介	グリーンクラブ
2	副会長	鉄村 琢哉	宮崎大学
3	副会長	鈴木 隆博	(株) 浜松花き
4	事務・会計理事	南出 幹生	南出 (株)
5	編集理事	富田 正徳	(株) アイエイアイ
6	国際理事	仁藤 伸昌	近畿大学
7	理事	大橋 広明	愛媛大学農学部
8	理事	佐藤 伸吾	(株) 花街道
9	理事	藤森 忠雄	(株) 赤塚植物園
10	理事	水谷 朱美	(株) ベルディ
11	監事	柴田 勝	(株) 王健
12	国際理事代理	Peter F.Waugh	Carann
13	国際交流推進委員	大森 直樹	(株) 山陽農園
14	年史編纂委員	武田 恭明	近江花学研究所
15	理事代理	青山 兼人	兼弥産業 (株)
16	理事代理	石井 克明	森林総合研究所 森林バイオ研究センター
17	理事代理	遠藤 弘志	揖斐川工業 (株)
18	理事代理	弦間 洋	筑波大学 大学院
19	理事代理	速水 正弘	静岡県西部農林事務所

編集後記

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。新年が皆様にとって、素晴らしい年になりますようにお祈り申し上げます。

今年も IPPS-J のニューズレターの充実努力いたしますので、宜しくご指導のほどお願い申し上げます。この 39 号からレターヘッドが大きく変わりました。

IPPS のロゴマークを使用したデザインになりました。このデザインが皆様に愛されることを期待しています。

さて、今年から海外の支部との交流が始まります。会員の増加や交流による様々な意義が期待できるものと考えます。どうか交流を希望する若い方々を探してください。また、海外担当者だけに任せるのではなく、私共会員ももっと海外へ出掛けて、海外の会員との交流を積極的に計画し、活動したいと考えます。海外との交流は必ずや大きな意義や成果を見出せるものと思います。

第 17 回愛知大会が 10 月に開催されます。現在、愛知県の会員さんが大会の準備にご努力いただいています。昨年の滋賀大会の成功に続き、是非とも沢山の会員の参加と共に意義ある大会にすべく、皆様のご協力をお願いいたします。

今年も会員の皆様から貴重な原稿を頂き、魅力あるニューズレターの編集に努力をいたします。ご協力の程宜しくお願いいたします。

(ニューズレター担当：藤森忠雄)